

# ZOOM UP



1994.No.88



## 歯界展望

昭和25年名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合し誕生した名古屋市立大学。その後経済学部、看護短期大学等が設立され、更に平成8年には人文社会学部、芸術工学部を新たに加え、文字通り名古屋を代表する魅力ある総合大学として心新たにスタートを切られるようだ。「今まではどちらかと言えば、入学希望者を大学側が選定し、さあ勉強なさい、という姿勢でしたが、これからの大学は市民の為の情報発進基地として積極的に市民にアプローチしていくことが大切かと思えます。学生も大学側からの一方的な教育ではなく、自ら何を選び、何を勉強したいか、と言う、いわば自分の為の勉強をする場を提供する方向に持っていきたいと思っております。」



名古屋市立大学 学長

# 伊東信行

「当校には医学部と共に看護短期大学もありますが、看護婦も今後は医師と対等のパートナーとして医師と同じレベルの知識を身につけ、高いレベルでの看護が要求される時代に入りました。当然、医療界も今までは違った対応を迫られる時代に入ったと言えますね。従って看護短大の4年制への学部化を考えねばなりません」。読者の先生方も既にご存知かと思いますが、歯科界も同じ様相。院内のそれぞれの分野別エキスパートとして互いに認め合うことが、優秀な人材を確保し、ひい

ては医院の発展につながっていく、と。その為には歯科医師自身の意識の改革も含めて…。参考になるお話である。

お生まれは奈良県との境に位置する京都府田辺町。略歴でもおわかりかと思いますが、奈良県立医科大学から昭和49年当大学へ。学生時代からそのフィロソフィーに感動し、尊敬していた恩師佐藤壽昌教授が病理学、特に癌の研究に着手されていたことから、当然のごとくその道に。癌の研究一筋に40年余。我が国を代表する癌研究者のお一人である。表した論文・著書は欧文・和文を含めて実に700冊近いという膨大な数にのぼる。又、学長の指導により学位を取られた先生方も数多く、我が歯科界でも地元名古屋でご開業中の水谷晶彦先生を初め5人の先生が、医学博士の学位を取得されている。——ところで学長ご自身の歯は？「水谷君が責任をもってやってくれています。もう歳で歯茎も萎縮して来ていますが、まだ歯は残っていますよ(笑)。欠けたり、インレーが取れたり……叱られ叱られ治してもらっております(笑)」。——医・歯と我が国では別々に発展しておりますが、学長はどうご覧になりますか？「人間の身体は、口腔から咽喉頭部、さらに胃へと連続的につながっているわけですから、昔はともかく現代では医と歯を分けることはそもそもおかしいのです。ただ歯科における整形等の技術は医学にはないフィールドで、少し離れておりますが、これからは同じ医療界ですから、状況によって一変するのではないかと思いますね。」

文章にすると少々固くなってしましますが、時にユーモアを交えながらのお話ぶりは、親しめるおじさん(失礼!)といったイメージ。——ご専門の癌については「癌になる人はこれからは減らないと思いますね。1つがなおっても又別のところに出来てきますし、天寿を全うしたといわれる100才近い老人を解剖してみると、常に3~4個所に癌があります。ただ臨床的な症状のある癌ではなかった、ということですね。若い時の癌はとにかく早く見つけて早く取り除くこと。80~90才になってもし癌になったとしても、進行が遅く、臨床的に症状のある癌になるのにはさらに10年位かかりますから、あまり心配することはないんです。ですから私は、「天寿癌になろう」と

言っております(笑)」。今年5月にはアメリカのNebraska大学から名誉学位を受けられた。10月に開催された日本癌学会では会長を務められ、出席者は7,000人近くに及んだようだ。その他癌の原因となる化学物質については、日本や欧米で各種の委員をつとめ、身体がいくつあっても足りないと思われる程である。

——今後の医療界については「やはり一番大事な問題は高齢化社会に対する対応ですね。この地方にも長寿科学研究所というものが出来ましたが、そうした老人に対する介護や治療の検討が重要でしょう。癌はどうして出来るかがわかり、又その治療法が進歩しても、手術によりその人のその後の人生を悲観的にしては何もなりません。乳癌で乳を取ったことにより自分が片輪になったと思込ませたり、前立腺癌の手術で若い人の性的機能が失われたりすることなどへの精神的面での配慮が大切ですね。歯科でも、技術の進歩もさることながら、長生きと共に、いかに歯を残すか、ということが大きなポイントになることかと思えますね。クオリティー・オブ・ライフ、を考えて行くことが今後の診療のポイントになるかと思えます。」

今年3月、40余年に亘り活躍された医学部を退任され学長にご就任。今後は更に大きな視野、立場に立たれて医学を含めた人間教育に貢献されるご様子である。学長としての抱負は「本学は名古屋市民の税金で経営されておりますから、それをシリアスに考え、いかに本学の持つ情報や知識その他を市民にリターンするか。又その市民を通じて世界にリターン出来るか。そうしたことを基本にやって行きたいと思っております」と結ばれた。

### ●略歴

- 昭和3年12月 京都府田辺町に生まれる
- 昭和27年3月 奈良県立医科大学卒業
- 昭和37~40年 ビッツバーグ大学留学
- 昭和47年8月 奈良県立医科大学附属がんセンター教授
- 昭和49年9月 名古屋市立大学医学部教授(病理学)
- 昭和57年1月~昭和58年6月 ドイツ国立癌研究センター客員研究員
- 平成1年4月~平成4年3月 国際毒性病理学者連合(IFSTP)会長
- 平成3年4月~平成5年3月 名古屋市立大学医学部長
- 平成6年1月~12月 日本癌学会会長
- 平成6年3月~ 名古屋市立大学学長

# 私と大阪歯科大学

学長

佐川寛典



## ■プロフィール

昭和31年3月 大阪歯科大学卒業  
昭和35年4月 大阪歯科大学講師  
昭和38年6月 米国ワシントン州立大学客員共同  
研究員  
昭和43年4月 米国ワシントン州立大学客員教授  
昭和45年6月 大阪歯科大学助教授  
昭和46年5月 大阪歯科大学教授  
昭和59年9月 大阪歯科大学副学長  
平成4年9月 大阪歯科大学学長  
平成6年1月 国公立歯科大学学長会議議長  
平成6年4月 学校法人大阪歯科大学理事長

明治44年。設立当初は地名が示すごとく、背後に大阪城、前面は淀川一大川と続く緑豊かで静かな学舎の地であったろう、と想像するが、大発展を遂げた今は、林立する巨大なビルの間であって当時の面影は全くない。後程学長のお話にも出て来るが、各科一病院等をつなぐ学内の廊下も迷路状。一度ではとても覚えきれない程である。

「やあー、いらっしやいませ」と現れた学長。堂々たる体躯に童顔でふよやかな顔。ご専門が細菌学と聞いていただけに、細面で少々神経質な方を想像していたが、お会いしたイメージは全く違う。包み込むような明るい笑顔は会う人をホッとさせる。学生はむろん病む人にとっても大いに救いとなっていることであろう。

「今、病院入口の側面に建てているビルの完成は平成9年3月の予定なのですが、とにかく昭和9年に建てた建物が、その後増築増築で、今ではバラバラ、通路も段差が出来不便この上ない。以前から附属病院だけを天満橋に残し、学舎は移転させようという計画はあったのですが、やっと実現の目処が立ち、天満橋に14階の新附属病院を、京阪電車沿いの楠葉(くずは)には新キャンパスの楠葉学舎が建つことになりました。総工費は約200億円。おそらくバブル期でしたら足りなかったかも知れませんが、幸い総ての建築費が下がり、同窓生を始め皆様にはご迷惑(?)をかけなくても済みそうだ、とホッとしております(笑)」。

——病院は建てられないのですか? 「学生実習の為の設備は入れますが、こうした時期ですから周囲で開業されている歯科医院や住民の気持ちを考え、診療は一切やりません。その分、学生の教育を、系統だて一年次から六年次まで一貫し、歯科医師として高度先進医療を身に付ける設備を設置する予定です。又、学生はむろんのこと、同窓生も常に学べる、開かれた大学としての場を提供していくつもりです。幸い、枚方市周辺には関西医科大学をはじめ外語大など5つの私大がありますので、将来はカリキュラムに互換性を持た

せ、語学は外語大、生物は当大学で等、より高度で広く深く勉強したい学生を教育する、いわば総合学園都市にして行こうではないか、と市長、各大学の関係者と夢を語り合っております(笑)。」と、活々と大歯大にける学長の抱負を語って下さる。設立以来、巢立っていかれた卒業生は13,721人、と言われるから、日本の歯科医療界に残した足跡も計り知れないものとなろう。「ええ、日本の歯科医療界を背負いご活躍中の先生方も数多くおられます。こうした方々が今度の移転に際しても多方面で協力してくれまして、本当に助かりました。又、開校の暁には、母校に来て後輩の為に指導や教育を惜しまない、と言って下さるので私としても心強く、今後共ぜひお力をお借りしたいと思っております。

—学長ご就任以来2年余り。当校の教育理念は？「私はそれをSPS(Student Personnel Service)と表現しているのですが、この意味は『学生による、学生のための大学』ということです。主体はあくまで学生。教職員はその学生を良き方向に導き助けることが役務です。そのため昨年から新カリキュラムの実施と共に週休2日制を導入、更にフレッシュマン・キャンパスと称し、新入生は全員、教職員と共に一泊二日の旅を。昨年はF1で有名な鈴鹿サーキット、今年は合歓の里に参りました」。

お生まれは四国の高知県。お祖父様は医師、お父様は歯科医師。土佐は明治にさかのぼるまでもなく“いっごそう”と呼ばれるつわもの輩出地である。学長のお顔にも心なしかその名残り(?)が。「ええ確かに(笑)。戦前から戦後まで、学生運動が盛んなところで、私も当時は相当(笑)…。当校に来る時、大阪では絶対にやるな、と親から言われ(笑)。「第2次大戦で全てを焼失、多くの人に助けられ、素晴らしい師や友人にめぐり逢った。爾来、人のために命を捧げる事が奉仕であり、人は人のために生きることを知りました」。この情熱が現在、大学改革、新キャンパスの完成と数々の難問を解決する源となっているよ



うである。

—細菌学をご専攻されたのは？「もともとは工学系が好きで、特に自動車の組立て等自分でやるほどだったんです。それで機械工学にも通じる電子顕微鏡から恩師である梅本芳夫教授や阪大の菅田栄治先生の影響で細菌学へと進んだのです」。

—細菌学の今後は？「人類がいかに進歩しても細菌はなくなりません。一つの菌、疫病を克服しても、それに対抗するように強い菌が生まれて来ます。例えば、リケッチアに感染した鮭を熊が食べてフンをする、そのフンでタニシが育ち、タニシを鮭が食べる、というようにそれぞれの世界にはライフ・サイクルと言うものがあり、当然それ等の中にあるリケッチアも含まれ移行します。ペストもネズミとノミから、近年私達を脅かしておりますエイズ菌もサルエイズ・ウイルスが人間に移って来たという説もあります。これは疫学的に病原性や感染に大きな問題です。高齢化社会を迎え、人間の抵抗力が弱まると共に、菌は形を変え、更に強いものとなって、我々に襲って来ます。歯科医院におきましても昨今院内感染ということが大きく取り上げられておりますが、我々が防ぐことの出来ない難病が文化・文明の発達と共に今後も起こって来るでしょう。医療に携わる我々は常に勉強、心してかかる必要があります」。

「今度の新学舎も、文部省が大学改革の進展と展望と題してあげております、(1)教育機能の強化、(2)世界的水準の教育研究、(3)生涯学習への対応。新キャンパスはそれ等の達成を目指し、20年、30年先を考え、そうした構想をどのように具体的に実現させるか、次代に向かって、今の私達に課せられた責任である、と考えています」。

今年62才。各種の会の委員、会長は10数に及ぶ。早朝出勤も有名。しかも毎週学生の講義もされていると言うバイタリティー。席は当然温まる様子はないようだ。



社団法人

# 岐阜県歯科医師会

岐阜駅から南に車で5~6分。

岐阜県歯科医師会館は、正面に大きな銀杏・楠の葉陰が影を落とす中側に、地上4階建のどっしりとした構えを見せて立っていた。

内部をざっとご紹介すると、1階は写真でもご紹介の身体障害者&休日歯科診療所。

2階がオーディトリウムと表示されているが、事務局と広いロビーが  
歯科医師はもとより県民の皆さん、ご自由にお使い下さい、

“歯科のことなら何でもご相談に乗りますよ”といった開かれた空間を提供している。

3階は歯の博物館と題し、歯科に関する歴史物や歯の成り立ちから始まって、予防や治療、啓蒙など、歯についての総てが誰にでもわかるよう展示・説明されている。

3階、4階が会議室と役員室。後程役員の皆様からお話が出るが、いかにも開かれた県民の為の会館といった雰囲気を感じられる。

秋は各種の行事も多く、役員の日程調整が難しい場合は、定例会議も日曜日。

中には3時間もかけて出席される役員の方もおられるようで、いつもながらその熱心さには頭がさがる思いである。

会議に先立ち、総山会長、大橋・酒向両副会長、中島専務理事の皆さんから県歯会の現状、活躍、問題点、更に将来への展望等をお聞きした。

尚、総山会長は、日本の歯科医療界を世界に雄飛させる基礎を築かれた元・FDI副会長であり東京医科歯科大学名誉教授総山孝雄氏のご実弟である。

- 会 長／総山 和雄
- 副 会 長／大橋 昭
- 副 会 長／酒向 昭司
- 専務理事／中島 弘之
- 常務理事／渡辺 卓也
- 常務理事／赤塚 滋
- 常務理事／横山 靖夫
- 理 事／川合 昇
- 理 事／福井 勝男
- 理 事／田中 賢
- 理 事／坂井 浩
- 理 事／市原 浩
- 理 事／小見山武雄
- 理 事／林 玲三
- 理 事／阿部 喜八
- 監 事／長井 昭三
- 監 事／伊藤 成章
- 監 事／河合 年朗



会 長  
総山和雄



会長：現在会員は県下で約900名おりますが、会の基本姿勢は歯科医師としての「理念」をしっかりとつこと。歯科医師の使命である「咀嚼機能の維持と回復を通して全身健康と健やかな長寿社会に貢献する」ことです。この理念推進の基本施策の一つに現在岐阜県には全県下郡市支部単位の口腔保健協議会という組織を作っておりますが、会長は市長、助役など行政関係の方にお願ひし、歯科医師はもとより、医師、薬剤師、地域の老人クラブやPTA、ロータリークラブ、各種のボランティアの方達の代表者に参加して頂き、地域住民に咀嚼機能の重要性を訴え、地域保健医療活動を積極的に推進する組織です。現在極めて活発に活動しています。基本施策の二つ目は長寿社会に対応する岐阜県独自の会員研修による歯科医療レベルの向上です。現在こうした対外活動の役務は主に酒向副会長、対内部——歯科医師の向上を図る役務は主に大橋副会長。そして総括は中島専務理事が分担してやっておりますので、それぞれにお話して頂きます。

大橋：対歯科医師の一般的な研修会や勉強等は他県でもやられておりますので省略し、当県独自とも思われます特徴を。当県は県内の朝日大学歯学部との全面的協力を戴いて、組織的に歯科医の知識・技術の向上に取り組んでおります。内容は1グループ80名を、2グループ作り、6日間コース(講義4日、大学附属病院で実習2日)で全身管理の講義と実習を行います。コースは初級と中級に分かれておまして、中級コースを終われば、ホームドクターとしての全身管理がほぼマスター出来るとのことで、それ以上は情報システムにより大学で診断、治療を施すというシステムになっております。現在3年半を経過し、約300人が研修しました。こうした活動も、大学側が心よく共に向上して行こうとする熱意があってこそ可能なこと。感謝しております。

新入会員に対しての講習は、医療管理等を含めた“歯科医人生をいかに送るか”と言うテーマで歯科医師としての心構え

や生きがい等を聞く講習会で、入会者は全員受講することを建前としております。受講者から、歯科医師会はこんなに良い企画をするのか、人生の柱となる話を聞くことが出来たと喜ばれております。医療管理としての活動の中で特徴的なのは、コ・デンタルの確保ですね。3つありまして(1)過去歯科医院に1年未満勤務

副会長  
大橋 昭



した人の基本的な研修。(2)1年以上の方は歯周病の治療を中心にした少し高度な講習・研修。(3)資格を取得しながら就業していない人の発掘と再教育です。以上ですが、こうした組織的かつ総合的な活動は会員に好評のようで、私達役員は今後も各項目に沿って質の向上を計りつつ頑張って参りたいと思っております。

酒向：私は先程会長が話された県口腔保健協議会の実行と促進が主な役務です。中で、特に高齢化社会を迎えたことから来る在宅訪問診療と成人健診について…。在宅訪問医療はハイリスクな患者ですか



ら難しい問題点も含んでおりますが、案じるより生むが易しとの言葉通り、心して治療すれば決して難しいものではありません。幸い行政も理解を示してくれまして、協議会の組織の中でタイアップし活動しております。中でもデイサービス、ショートステイと呼ばれる老人福祉施設への訪問診療は、10～13人位の心身に障害を持つお年寄りの方がおりますので2人位の歯科医師が、保健婦、衛生士と共に行くことで、能率的な治療が出来ます。厚生省もこうした診療に理解を示し、この10月から点数をつけてくれました。今後はこうした活動が県単位から地域の市

副会長  
酒向昭司



町村に移行されていくことで、更にきめ細かな活動が出来ることと思っています。

成人健診につきましては、保険組合と県歯会が契約を結び事業所健診として活躍しております。こうした活動も先の口腔保健協議会の内容を理解することによって一般成人健診の中に組み込み、全身の健康管理を徹底することを目的としたものです。時として色々な困難にぶつかりますが、県民と共に歩む歯科医師の姿勢が評価されることはうれしいですね。

専務理事  
中島弘之



中島：先のコ・デンタルの話にもありましたが、現在衛生士学校の卒業生、又高校生にも衛生士という職業についてTVスポットの放映や案内パンフレットを配りPRしておりますが、こうした活動は各セクション別の行動ではなく、横と手をつなぎ共に向上していく総合的な組織づくりが大切です。その為には歯科医師の啓蒙はもとより、歯科医療界そのものを、給料や勤務時間、又仕事の内容等、魅力的な職場にもっていかねばなりません。難しい点もありますが、外部に目を向け、時代に沿った努力を常にし続けることが大切だと思っております。

会長：明治45年に歯科医師会が設立されてから今日まで、会も幾多の困難や変遷を余儀なくされましたが、先人の努力で現在この様な発展を迎えました。こうした歩みを更に発展させ後輩につなげていくのが我々の役目。その為には20年、30年先を考え、どこに焦点を置き、何を今成すべきかを考えることが大切かと思っております。幸い会員の方々もよく協力してくれまして、県民の健康を守り育てる歯科医師の姿勢に理解を示しつつあります。私達役員一同もこうした活動を更により良い方向に向けて努力して行きたいと思っております。

# 島本歯科医院

札幌市白石区栄通6-4-15

院長 島本 聡

副院長 島本貴子  
(旧姓・土肥)



札幌の中心地大通公園から車で10分。国道36号線を左に入った住宅地。辺りはゆったりとした敷地にモダンな建物が続く、いかにも北海道らしい明るく爽やかな街並を形づくっている。

ご紹介の「島本歯科医院」もそうした周辺環境に合わせてように若々しく明るい外観をみせていた。

前面は5~6台可能な駐車場。玄関アプローチは、ともすれば単調になりがちな建物を補うように、グレーのアーチ、上部にアールの庇、下部に医院名を入れたすてきなイメージに仕上げている。車椅子でも簡単に上がれそうな段差の少ない玄関ホールから、ガラスドアを押して待合室へ。窓に沿ってL字形に並んだブラウン色の待合室のソファ。床はグレー、受付は木目のオープンカウンター。

診療室の床は待合室と同色同材。窓にそって、スマイリー<ノーベル>RLタイプが3台並ぶ。グレーの下台に、レザー部が手前から、黄、青、グレーと3色に色分けされている。副院長が主に治療される子供専用の黄色のチェアに仰臥すると、天窓から青空が広がる。成人とわけてちょっと不公平(?)だが、青い空と流れる雲は子供さんにとってはさぞ好評なことであろう。室内全体のイメージを白とグレーにまとめ、アクセント色としてブラウン色を窓枠等に使用。若い院長ご夫妻に似合った、スッキリとした都会調の診療室に仕上がっている。

院長は昭和60年、日本歯科大学新潟歯学部をご卒業。卒後は母校の補綴学第3講座に8年半余り在籍し、今年2月当地にて開業。尚、その間、アメリカ、ヨーロッパの学会、勉強会に参加し、各国の歯科医療を学ばれたという、努力・実力派である。

奥様である貴子先生は同校の4年後輩。卒後はやはり母校の保存学第2講座で1年、更に開業医のもとで、結婚後でしたのでアルバイトでしたがと言われるが、3年勤務医を経験。

充分なキャリアと実績を積まれた、夫婦で診療されている評判の歯科医院である。



Q：歯科医師を志された動機は？

院長：父は全く別の職業ですが、子供の頃から、医療関係の職業にあこがれがありまして、気がついたら歯科医になっておりました。

副院長：私は、3人姉妹の長女で父が旭川で開業しておりますので、小さな頃より歯科医になるつもりでした。父は当然後継ぎにと思っていたのですが、此処で開業してしまい、多少残念がっているかな(笑)。でも妹の夫がいま北大歯学部に通っておりますから父も私も内心ホッとしております(笑)。

Q：奥様、女医と家庭の両立。大変ではありませんか？

副院長：いいえ、主人がよく協力してくれますから(笑)。それと住まいが2階ですので、診療の合間に食事の仕度や掃除が出来ますので、苦痛は全く感じませんね。

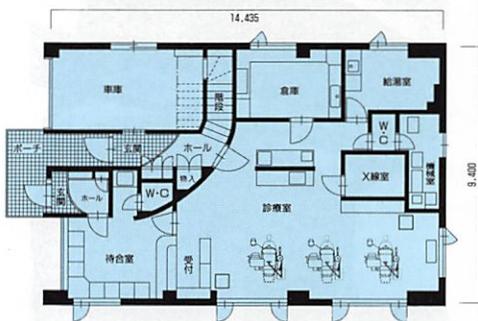
Q：患者数と患者層は？

院長：1日25~30名位。小児から始まり上は90才位までの方が来院されます。バス通りに面していますので、バスや車での来院も多く、又昨日は勤務医時代の

患者さんが、新潟から飛行機に乗ってわざわざ来院してくれたり、その前はシカゴから日本の出張の際に噂を聞いて来院されたり、在日外国人も来院されたりで、大変有り難いことだと思っております。

副院長：2月の開業日には大雪が降り、今日のはんびりね、と思っていましたら、朝8時半から来院者があり、午前中だけで10人。ちょっとびっくりしました。私は小児を受け持っておりますが、近くのパークで評判を聞いた、とって来院される方も多いですね。もともと子供が好きで、子供と同じ感覚で考え、話しをすることを心掛けておりますが、そうしたことが子供さんにも伝わり、歯医者は痛くて怖いところだと思っていた子供も、家の歯科医院は気に入ったといい、楽しんで治療をうけております。うれしいですね。

Q：診療室を作られるにあたってご留意され



お世話に成りました。このユニットは初めてですが、最初から全く抵抗がなく、使いやすいですね。

Q：今後の方向は？

院長：開業にあたって教授から「開業しても大学で行なっていたレベルを落さないように、治療しなさい」とおっしゃられ、その基本を忠実に来院される患者さんにできるだけ時間をとって治療を行なっています。また、現在月一回、地元の白石保健所の3才児歯科検診に参加させていただいておりまして、今後とも地域の保健活動に貢献させていただきたいと思っております。

副院長：いま月一度、父と同級生(日歯大卒)で、北海道医療大学歯学部(元・東日本学園大学歯学部)の口腔外科の金澤教授に来て頂き、口腔外科に対する指導をして頂いているのですが、そうしたことが、患者さんへの信頼はむろんのこと、私達にとっても非常に良い勉強の機会になっております。それを今後は私達の治療と結びつけ、地元の方々と一生を通じておつきあい出来るような歯科医院にしていきたいと思えます。また歯科医院の建設当時から色々な人にめぐり合い、助けられてこれまで順調に診療することが出来ました。院長共々大変感謝いたしております。これからも気をひきしめて頑張りたいと思えます。

た点は？又資金の方は？

院長：資金は父の信用から良い条件で融資して貰うことが出来、又設計士との巡り合いも父の紹介で、その点は感謝しております。その前3軒程設計して貰いましたが、私達のイメージと合わず。菅(スガ)設計企画と言うのですが、会った瞬間からお互いの考え方がピタッと合い、コミュニケーションを重ねながら作り上げました。全体のイメージはスッキリと。オープンスペースは広く取りたいが、その空間にホッと出来る雰囲気を持たせること。抽象的で難しい条件でしょう(笑)。

副院長：外観や色など、2人の雰囲気から感じ取ったと言われましたが、一回で決まりました。人と人との出会いとは面白いものですし、良い設計士さんと巡り合えた、というのが総てだったと感じております。お陰様で患者さんの評判も良く、働きやすいですね。

Q：オサダのスマイリー<ノーベル>RL(右前システム)タイプを選ばれたのは？

院長：オサダのユニットは大学時代は未経験だったし、アルバイト時代は昔の機械を少し使った程度だったんですが、ワ

ークテーブルが患者さんの胸上に来るのが嫌いで…。開業時色々とお世話になったオサダの所長と、私の治療方針から来るユニットの形。それ等からこのノーベルを選びました。

副院長：開業地が札幌だと友人に話したら、それならオサダがいいわよ、と言われ…。この地を見つけて下さったのもオサダさんで…。開業にあたっては色々





# 中村歯科

鹿児島県始良郡霧島町田口919

院長 中村浩一郎



鹿児島空港から山峡の道を車でおよそ30分。緑濃い左右の山々のところどころが無残にくずれ落ち薄茶の山肌をみせている。話によると昨年の豪雨の傷痕とのこと。変わって今年は異常渇水。世の中なかなかうまくいかないものである。

ご紹介の「中村歯科」は山間を抜け、田園地帯に入った静かな県道沿いに建っている。あと10分程走れば、有名な霧島屋久国立公園に到着するようだ。

看板は黒地に黄色の医院名。上下にピンクの横オビを入れた、医院としてはちょっとユニークな色使いである。

建物は道路より一段高くして、正面に駐車場。玄関アプローチは左右両面より階段を上って建物の中心から入るように作られている。淡いピンクの外壁、プランターに植えられた豊富な花々が、やさしく患者さんを迎えている。

待合室の床はグレー。壁はベージュ、天井は白。広いオープンカウンターを通して診療室が総て見渡せる。

診療室は窓に沿って濃淡グレーのスマイリー<ノーベル>L型が3台並ぶ。院長のお話によると、5台設置は可能だが、まだ3台で充分。左右はオープンスペースとして多目的に利用されているとのこと。「面白いでしょう」と言って見せてくれた受付背



後のカルテボックス。もともとはワイシャツ入れとして売られているものであるが、引き手を下げると扇状に内部が仕切られていて、確かにコンパクトで使いやすそうだ。

窓からは田園風景、その向こうには緑の山々。都会人にはうらやましいような好環境である。

院長は鹿児島大学歯学部を平成3年に卒業。卒後は大学病院の歯周病科で1年余り。その後熊本、都城で勤務医を経験された後、今年8月、生まれ故郷である此処霧島町に戻りご開業。

今年29才とあって、照れと冗談、合間に本音が入り交じり、話していてもたのしい院長。真新しい建物と明るい印象のスタッフ一同。まずは順調なスタートである。

者さんになかなか言えないんですよ(笑)。

Q：この辺りも歯科医師過剰ですか？

院長：人口約6,000人に対して、私を含めて3軒ですが、地元にあと2人歯科医師がいらっしゃいますから、もし地元で開業となれば過密になりますね。でも私も割り込んだ訳ですから、その時は気持ち良く、と思っております。

Q：開業2ヶ月余、着着かれましたか？

院長：まだ足が地に着きません(笑)。平均1日22~23名の来院者数ですが、ほとんどが農家の方達です。雨が降りますと増えますし、逆に農繁期はヒマを持ってあましております(笑)。

Q：勤務医時代と層のギャップを感じられますか？

院長：ハイ(笑)。前歯の補綴に保険はきかないと、ほとんどの人は思っていますし、総義歯を、ネジでもなんでも入れて固定してくれとか、色々ところが驚く様な質問をして来ます。開業まもないので色々ギャップを感じますが、地域医療とはそうしたものであるとだんだん自覚して来ました(笑)。歯の治療より、まず仕事第一。自然を相手に生きる人達にとっては当然のことかも知れませんが、そうした環境の中で、来院者には本人の思っている以上の治療——120%の治療をしていくこと。それを方針にやって行きたいと思っています。

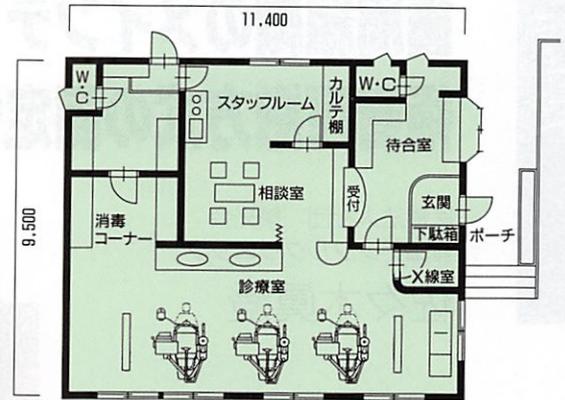
Q：お父様は教職につかれておられるとのこと。何故この道に？

院長：うーん。とにかく小さな頃より教員にはなるなど(笑)。予備校時代かな、歯が痛くなり、歯医者に行ったら一回で治ってしまいました。身近にこうした歯医者がいれば皆んな助かることだろうと…、歯科大に進みました。

Q：じゃあ、患者さんの痛みや心はよくわかりますね。で、今ご自身の歯は？

院長：それが悪いんですよ(笑)。明日も休んで歯医者に行かねばなりません(笑)。困るのは自分が悪いから、患





Q：ご実家の土地に、ご自身で建物を、というのですが、自己資金は？

院長：銀行に依頼をしに行った時、今の手持資金は？と聞かれたので、今、財布に200円持っていますと言いましたら(笑)、本当に払えるんですか、と言われました(笑)。でも返す意志はありますと…(笑)。建物1500万、ユニット等の機器類に1500万、保険その他に500万かかりました。返済は来年8月から始まります。

Q：患者さんの保険の割合は？

院長：国保が圧倒的。自費はまだ0です。でも近頃、県道に面しておりますので、車で通勤される方が見ているようで、時々来院され、ポツポツですが社保本人の方が来られるようになりました。

Q：診療室を作られるにあたってご留意された点は？

院長：総体的には、とにかく明るく開放的な雰囲気を、ということですね。最初は素人的な設計発想で3ヶ月ほどたつきましたが、オサダの本社に頼んで3通り設計してもらったら、後はスムーズ。思い通りの診療室が出来上がりました。看板もちょっと変わっているかも知れませんが、真面目を前面に出したくないと(笑)、あの様に作りました。

Q：オサダのスマイリー<ノーベル>。どんな理由で？

院長：大学病院には色々なユニットが入って

おりましたが、その中でオサダの機械が故障も少なく、メンテナンス等、最も良かったんです。勤務医時代は他社とオサダがあったんですが、開業するなら絶対オサダを入れなさいと院長にも言われ…。ノーベルは、営業所に行ったら、格好よく使いやすそうだったから、すぐ決めました。問題は全くありませんね。

Q：スタッフの教育は？

院長：幸い3年半の経験を持つ衛生士さんが入ってくれましたので、あとの2人は全くの素人でしたが総てキチッとやってくれ、助かっております。後は雑談中や

その場その場で教えております。相手(患者)によりケースが皆違いますので、セオリー通りには行きません。明るく和やかに患者さんと接する。うまく行っていますので今のところ特別に教育はしていません。

Q：ご趣味は？

院長：パチンコ筋(笑)。前は週6日出来ましたが、今は3日ぐらいで、その点に関しては開業してクヤシイ思いをしております。何しろ“継続は力なり”と本人が思っておりますから…(笑)。

本音と冗談、愉快な院長である。



オサダの商品  
〈お元気ですか〉

## 武藤歯科医院

福島県郡山市堂前町11-1

院長 武藤 功  
武藤俊介



東北新幹線・郡山駅から車で5～6分。南北に走る国道4号線を1本入った住・商地に建つ武藤歯科医院。お父様(旧・東歯医専卒)がこの地に開業されたのが昭和の初期と言われるから、既に70年近い歳月を経た歯科医院である。

建物外観も医院らしいどしりとした落ち着きを感じさせる。

院長はお父様と同じく東京歯科大学を昭和39年にご卒業され、卒後は同大補綴学教室にて3年



研修、その後東京丸の内にある新東京ビル歯科クリニックに勤務された後、当地に戻りお父様と共に診療生活へ。「帰って、この建物をたて、さてこれからという時、父が亡くなりましたので、共に診療をしたのはたった1年だけでした。当時はスタッフも7～8人いましたが、他の町と同様、この辺りも近年急激に医院が増え、現在は私と女房と息子の嫁の3人でんびり診療しております(笑)」——ご子息も東歯大を卒業され戻られたとお聞きしましたが……「ええ、戻って来ましたが、今年卒業したばかりですから、まだとても……。今は地元の太田西の内病院というところで修業させてもらっております。私もまだ57才ですから、あと10年位は気を使わず1人でやっていきたいですよ(笑)」——過密と言われますが、郡山市の人口は約30万人。どの程度なんでしょうか?「郡山市は面積が広く、峠を越えた先までも含めてですから、実質、町の人口となりますと、その半分から2/3程度です。そこへ100軒以上の開業医が集まっているという計算になります。更に、この辺りは他の市町村同様、バブル景気の後遺症というのですか、人口のドーナツ現象化が加速して来て、どんどん郊外へ流出しています。現在、家から歩いて5分程度に6軒ほどありますが、それでも以前は充分やっていけたんですけどねー。

地元で10数年前歯科大学が出来ましたから、歯科とは無縁だった家系のご子息なども続々と卒業、開業をなさっていますし、又、郡山は不思議な所でして、この歯科大に来たことが縁でここに開業なさる、という方も結構おられます。これは歯科に限った話ではなく、各分野ともそういう傾向が強いのです。郡山の経済、文化を支えているのは、純粋な郡山人は少ない、と言っても過言ではないかもしれません」。ご兄弟5人の内、3人が医科に進まれ、4男である先生が跡を継がれた、という医療一筋の家系。——現在のご心境は?「現在82才になる東京の叔父が、歯科の跡継ぎがない為に、7～8年前に医院を閉じました。そして先日会った時、言ったことは“あのまま続けていれば良かった。1日2～3人でも患者さんを見ていれば、今こんなに退屈することもなかったのに——”とつくづく話しておりました」。

診療室内はほぼ正方形。中央にキャビネットを設置し、それを囲むように4台のユニットが置かれている。最新鋭のスマイリー<ノーベル>と共に、オサダが昭和40年代の初期に、国産初の右前システムとして発表し、当誌の表題ともなったZ型のズーム・ユニットが置かれている。「このユニットはこの建物を

作った時買いましたから、昭和43年だったと思います。部品もだんだん少なくなって、他のズームから取っては使っておりますが、もう26年。オサダはマメに回って、手入れもよくしてくれますから助かりますが、それにしてもよく持ちますねー(笑)」。4半世紀にわたり活躍しつづけているユニット。やはり丁寧に、大切に使用して下さるからこそである。

丁度、ご子息俊介氏が昼食にお帰りになったとのことで、強引に登場して頂き、3代目としての抱負をお聞きする。——

大先輩であるお父様を、同じ歯科医としてご覧になっていかがですか?「今はまるで追いついて行けない、というのが本音です(笑)。特に補綴は専門ですし、長年やっておりますので早くて上手。休みの時、時々手伝いますが、邪魔になるだけみたいで……。故郷に帰り、今は良い病院に勤務出来ましたので、一生懸命勉強しております」。——将来の夢は?「この郡山に東歯大卒の友人が5人おりますので、将来それぞれ違った分野——口腔外科、補綴、保存、矯正、小児等が一つになって病院をやれたらいいな、と話し合っています。個人個人でやるよりも、精神的な管理等も含めた、どんな患者さんにも対処出来る歯科総合病院。私は歯周病学についてよく研究し、そしてプラス父から補綴を学び、と考えているんですが……。全然!夢ですから(笑)」。

次代に向かって、困難・変遷を乗り切っていくであろう。確かな3代目のスタートである。



26年前、診療室を新築したと同時に買ったこの<ズーム>ユニット。オサダはマメに回ってくれますから助かりますが、それにしてもよく持ちますよ。

Z O O M で C L O S E - U P



# 小林義典先生 の巻

日本歯科大学歯学部歯科補綴学教室  
第一講座教授

中央線飯田橋駅脇に建つ日本歯科大学附属病院。その3階にある補綴学教室に、東歯大・腰原教授のリレーで、小林教授をお訪ねした。

「いやー、ちらかつているから座れるかなー」と言われて入った教授室。思わず、あーと驚く程、机上や床には、所狭しとばかりに本やおそらく何万枚にもなるだろうスライドが置かれている。「こだけじゃあないですよ。隣の部屋も一杯です」と笑って話される先生。ものすごい勉強家の片鱗を垣間見た思いである。

——腰原先生との出会いは「もう20年以上になるのかな。同じ補綴学会に属し、私は柳田教授(故)、腰原先生は羽賀教授(故)のもとで勉強しておりまして、お互いに下働き同士、会の連絡その他で話し合うことが多かったんです。その後お互いの人間性や同世代であることの気安さから、学会以外でも友人としてつき合うようになりました」。

お生まれも偶然同じ長野県? 「いや、実を言いますと生まれは東京なんです。でも戦争で長野県・上田市にある祖父の実家に疎開し、そこで小・中・高と過ごしましたから、長野県人と同様。長野ですね、と聞かれば、面倒だから、ああそうですよ、と答えております(笑)」。

——今の歯科医療界をご覧になって「又々文句を言われそうかな(笑)。本邦は、経済発展と共に歯科界がここまで成長した足跡は先達の方々のお陰ですが、現在では社会環境も大きく変化しております。今年も世界各地で歯科の国際学会が開かれますが、会長は45才前後。出席する世界の教授達も皆若いんですよ。トップはアクティブにやれる若い年代にまかせ、足りない部分を長老がバックアップする。時代に即応した歯科界にするためには、そうした方向に持って行くべきだと20年以上言い続けて来たのですが、なかなか実現出来なくて(笑)…。歯科補綴学会も半数以上が若い一般臨床医なので、そうした先生方に、将来を見据えた魅力ある学会にしなければ出席者も限られて来ます。大学を中心とした過去の社会機軸が未だにそ

うなっているのです」と手厳しいお話。確かに各地の若い先生方をお訪ねすると、我々の意見が組織の上部につながって行かない、と言う話をよく耳にする。今どきの若い者は…古代ローマ時代から言われて来た言葉であるが、それにしても政治を含め日本の対応は遅い、と思うのは私だけだろうか? ——高齢化社会を迎え、益々歯科補綴学の重要性が増して来ました。先生のご意見は? 「寝たきり老人が増え、そうした方々が一番欲するのは食べることに話すこと。つまり咀嚼系をまず満足させ、それ等を通していかに健康を回復させるかを考えることが大切です。そうした中において歯科医師はHow to? のように対処す



べきかを考える。それには歯科医学にのっとった生体としての歯科研究。白人と東洋人との違い、又国内の若者の体形も咀嚼機能を含め昔とはかなり違って来ているのです。それを古い理論、しかも欧米からの直輸入の理論・技術で未だに教育をし、それを通用させているのです。食物にしても、日本人は小さなカニを丸ごと食べたり、その他タコやスルメなど世界一の雑食民族なのです。人工歯を作る場合でも欧米と同一ではおかしいと思うのです。そうした研究も最近やっと緒についたばかり。今後は歯科補綴も医師や理学療法士、リハビリの専門家、心理学者等々とプロジェクトを組み責任を分担して、進めるべき時に来ております」。「大学における教育もこうした理論、実体に沿って、アンダー・グラジュエイトにおける教育は? ポスト・グラジュエイトは、とキチッとされたガイドラインを

学会が作成することが必要です」。——でも大学6年間でそこまで学ぶことは、多過ぎて無理なのでは? 「確かに多過ぎて無理です。ですから大学ではその出発点のレベルを考え、どの時点まで教育するか、ですね。そうした意味で学会の持つ責任は大きいと考えます。今はその過渡期。しかしハッキリ言えることは昔からの歯科医師の教育方法では通用しない、と言うことです」。時に痛烈とも聞こえる話の内容であるが、それだけに燃えるものを感じ、聞く側の胸を打つ。

——先生は歯科医師としては初代? 「いいえ、親父も歯医者。戦争中は陸軍病院にいたりして…。私も、うーん、何で歯医者になった



のか。気がついたらこうなっていて、今更抜け出せないですよ(笑)」。30才才にして教授になられた由、かなりの俊才であることは確かだ。

——最後に日々臨床に携わる読者の先生方に「現在、日本補綴歯科学会に入会されている会員の過半数が臨床医であり、若い先生方です。従来の意識レベルからいいますと、どうしても歯科補綴のテクニックを修得あるいは学ぶことが第一義的になり、その基になる歯科医学的根拠に注意が払われてこなかったという歴史があります。最近、社会で叫ばれているクオリティ・オブ・ライフあるいはアメニティ・オブ・ライフという観点からすると、歯科医療に求める国民、すなわち患者側の要求は、健康を維持すること、いわば健康科学の中で歯科を考えていく必要があります。したがって、まず歯科医学に基づいて歯科臨床を行わなければなりません。その意味で、今後歯科医は、相当な勉強が必要になるものと考えられます。要するに、我々歯科医全員の意識改革が必要でしょう」。

# 世界保健機関(WHO)

## 東地中海オフィスの活動状況

Morocco

「世界口腔保健年」に作成されたポスター





エジプト・アレキサンドリア オフィス

世界的に各国が情報を交換し、単に体だけにとどまらず、精神的にもヘルシーな状態を作り出して行こうと設立されたWHO。活動開始は1948年4月7日。現在世界6ヶ所に拠点を置き、166ヶ国(1990年時点)がメンバーとなっている。予算は基本的にはメンバー諸国の負担だが、額は支払能力に応じ一定しないし、ボランティアによる寄付に頼る部分も多い。各種投票権はそれら負担額に関係なく1ヶ国1票となっている。今回は前号にひき続き世界口腔保健年に合わせ、東地中海オフィス下における歯科医師界の現状と活動の実際をお知らせいたします。

## はじめに

WHOのプログラムの基本は、世界6カ所に設置されたWHO地域拠点のメンバー諸国と協力し、それぞれの国の基本的ヘルス・ケアを強化することである。

それでオーラル・ヘルスの問題は、先ず各国のナショナル・ヘルス・プランの中にオーラル・ヘルスを組み込む作業から始まる。具体的に云うと、オーラル・ヘルス評価システムの設置、可測のゴール定義の検討、そして2000年迄に達成すべきオーラル・ヘルスのレベル目標設置ということだ。

東地中海地域(EMR)WHOのメンバー諸国は、Afghanistan、Bahrain、Cyprus、Republic of Yemen、Djibouti、Egypt、Iran、Iraq、Jordan、Kuwait、Lebanon、Libyan Arab Jamahiriya、Morocco、Oman、Pakistan、Qatar、Saudi Arabia、Somalia、Sudan、Syrian Arab Republic、Tunisia、United Arab Emirates、Yemenの23カ国となっている。

WHOに依ると、世界総人口の50%に浸透している虫歯と歯周病が人類最大の病気で、口腔衛生が行き渡っている成熟社会はともかく、発展途上国では悪化一方と発表されている。

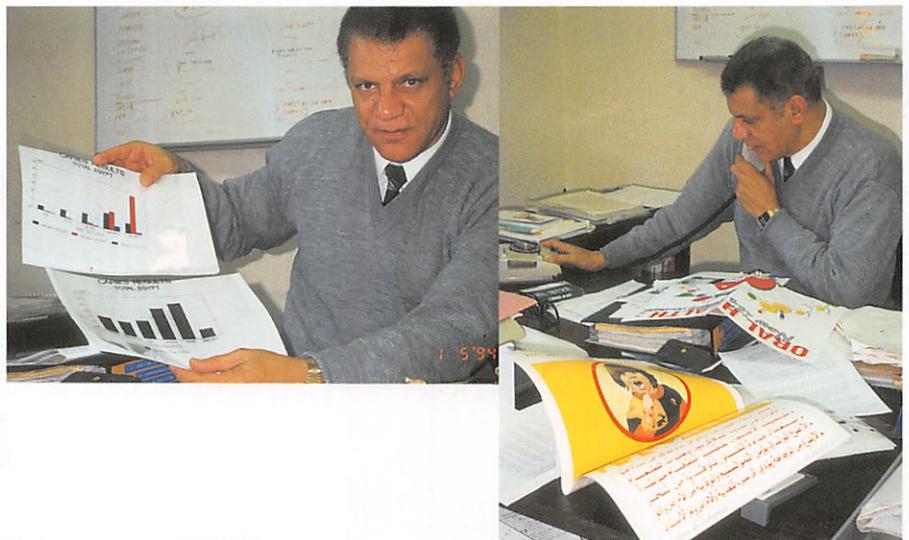
EMR諸国もこの例に洩れず、虫歯と歯周病の問題は悪化傾向で、特に都会地域での悪化傾向が著明だそうだ。

口腔衛生観念の欠如が最大理由のひとつとして挙げられている。歯科事情はメンバー各国で甚だしい差があるものの、EMR諸国の共通点は、オーラル・ヘルス治療が抜歯に集中しており、充填・修復といった治療はおざなりという状況だそうだ。虫歯予防観念が無く、治療器具・材料の欠乏も加わって、何はともあれ患者のニーズを満たす——つまり手っ取り早く抜歯——ということになっているらしい。つまりEMR諸国では、必要以上の抜歯治療実施という現状で、結果的に歯列破壊の原因となっている。

EMRのWHOはエジプトのアレキサンドリアに在り、そこでオーラル・ヘルスを担当するサイエド博士から色々話を伺った。取材



Dr. Sayed Al-Hussein



二日前、メンバー諸国との打合せから帰国という多忙なスケジュールの中、数時間に及ぶ私の取材に応じて下さり、その上丁寧なもて成しにあづかった。

市場経済成熟国の取材では、お茶やコーヒー抜きが多く、出てもマグでボンといった形式が殆どだが、経済発展途上諸国ではもて成しが厚くなり、大体必ず取材に入る前にポット入りのお茶かコーヒーが、お砂糖、ミルク、そしてナプキンともども、お盆で運ばれてくる。ナプキンはリネン、お匙は銀だったりステンレスだったりするが、使い捨てのプラスチックということはまず無い。

飲食物について、「入れ物も味の中」とかいう表現がある。まことに穿った表現と思う。ニューヨーク生活で、ティー・バッグが入って糸が外に垂れ、唇をつけた途端に味が落ちてしまう感じの分厚い縁のマグ、使い捨

てプラスチックのスティックやスプーンの生活に慣れてしまった私には、こういう接待が有難く感じられる。何かキチンとした「礼節」に巡り合った安堵感があり、不思議と心が和むのを意識する。

世界舞台で最初「後進国」という表現が使われ、その中それが「発展途上国」と修正されたが、それでも抵抗を禁じ得ない私は、その上に「市場経済」とつけ加える習慣となっているが、その背景にはこういった異文化の日常茶飯事上の暖かい心の体験が抵抗の底にあると思われる。

## 虫歯と歯周病の問題

さて、EMR諸国で悪化する一方の虫歯と歯周分野の問題について、12才と15才の青少年対象で実施された調査があり、(使用さ

## 世界保健機関(WHO) 東地中海オフィスの活動状況

口の25%)で最も少ないのはSudan(人口の2%)となっている。ちなみにBahrainは人口の14%、Saudi Arabiaは10%、Republic of Yemenは6%と発表されている。

口腔衛生観念の欠如、治療材料器具の欠乏に加え、オーラル・ヘルス分野に従事する人材の有無が、大きく関与していることは否めない。

メンバー国に依って、歯科医師数の調査が行われた年が異なるので、厳密な数字とは云えないが、歯科医師数が最も多いのは人口2,073人当りに歯科医師1人のCyprus、最も少ないのは人口100万人当り歯科医師1人のSomaliaとなっている。(表1)

また補助人材となると、その数は有っても歯科医師数を大きく下回り、皆無のところも少なくない模様だ。

オーラル・ヘルス人材向け教科課程は、通常成熟諸国の50年代や60年代のものに基づいているが、元々パッケージされた歯科医学の知識と技術は、EMR諸国の歯科問題には不適切となっている。特定地域の人口の現実的ニーズを考慮して作られた教科課程、知識、技術ではないので、役立たない、ということだ。大きさに云うと、食糧を必要としている人に、調理用の電化製品を与え、使い方を教えようとする見当違い、ということであろう。

### EMR諸国の共通問題

現状の向上を計るには、何が問題かを先ず把握せねば、解決策は誕生しない。

ヘルス一般ということでは、メンバー諸国の調査はほぼ終了となっているが、79年に開始されたオーラル・ヘルス調査・分析・予防対策は、まだ続行中と聞く。内容はテーマ別で段階的に実施され、前記の各メンバー諸国の虫歯罹患率、歯周異常レベル、人口当りの歯科医師数、現在の治療施設と治療システムなどは、ほぼ完了した模様で、そこから浮上した基本的共通問題点が、次の10項目にまとめられている。



れた「虫歯」の定義はDecayed(齲蝕)/Missing(無歯)/Filled(充填)Teethで、その頭文字をとってDMFTと調査資料では省略されている)それに依ると、12オレベルで虫歯罹患率の最も高い国は、Syrian Arab Republic、Iraq、Cyprus、Egyptの順で、15オレベルとなるとIraq、Egypt、Cyprus、Pakistanの順で高くなっている。但し15オグループの調査は、シリア・アラブ共和国では実施されなかったか未完成かで、この統計には含まれていない。

虫歯罹患率の最も低い国は、12オレベルでBahrain、Libyan Arab Jamahiriya、Somalia、Sudanの順となっており、15オグループもほぼ同様となっているが、新しい調査で著明となっていることは、12オから15オ年齢グループとなると、Republic of Yemen、Somalia、そしてSaudi Arabia諸国の虫歯罹患率が急激に伸びている点である。

虫歯の86%は、第一永久歯と第二臼歯の咬合面に見受けられるとなっている。

歯周病の調査は15オグループが対象で実施されており、それに依ると最高罹患率の国はRepublic of Yemen、Egypt、Iraq、Libyan Arab Jamahiriyaで、最低はBahrain、Cyprus、Sudanとなっている。

歯石が大変多く、Libyan Arab Jamahiriyaの15オグループの80%、Bahrainでもその71%に見られ、歯周病にかかっている15オグループは、国に依ってはゼロとか18%という驚くべき調査結果となっている。

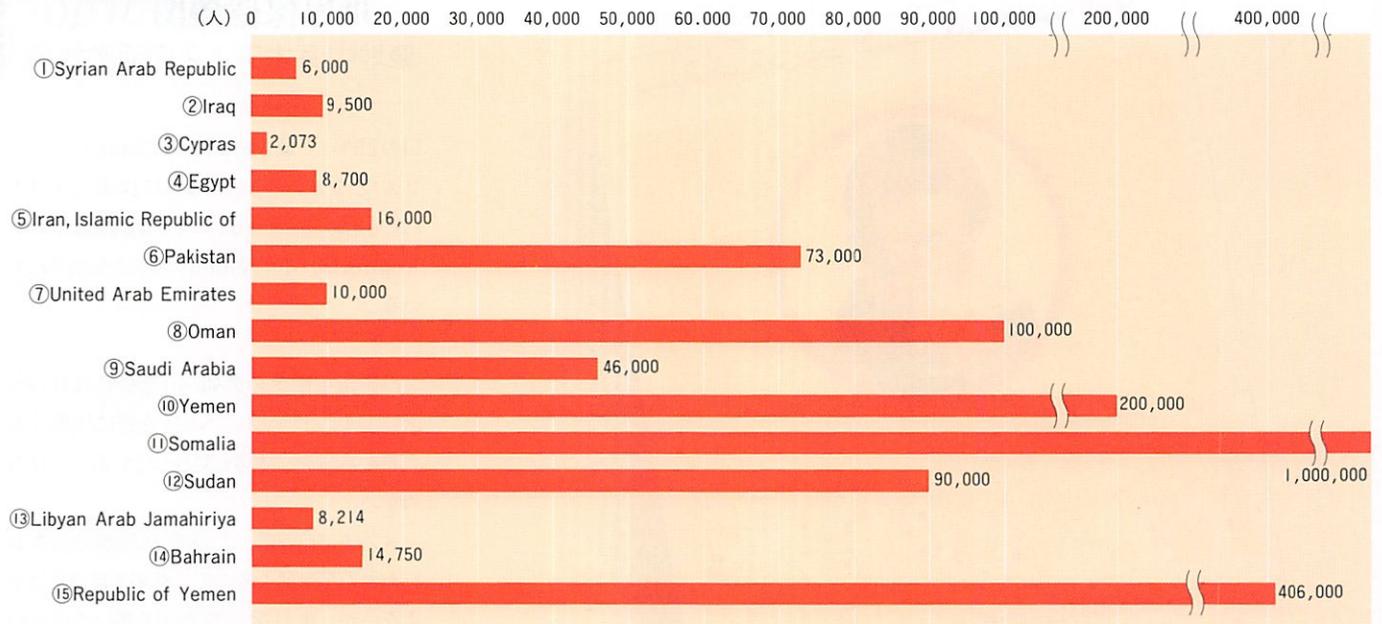
口腔衛生欠如がその何よりの原因とされ、青少年時代に見られる歯周異常が、以後の歯喪失の最大原因と見られている。(表2)

### 歯科治療の実態

メンバー諸国に依って不均衡が甚だしいが、総体的に見ると、治療を受ける人口数が、実際に治療を必要とする人口数を大巾に下回っている事実が明らかだ。

国別で見ると、治療を受けている人が最も多いのはLibyan Arab Jamahiriya(人

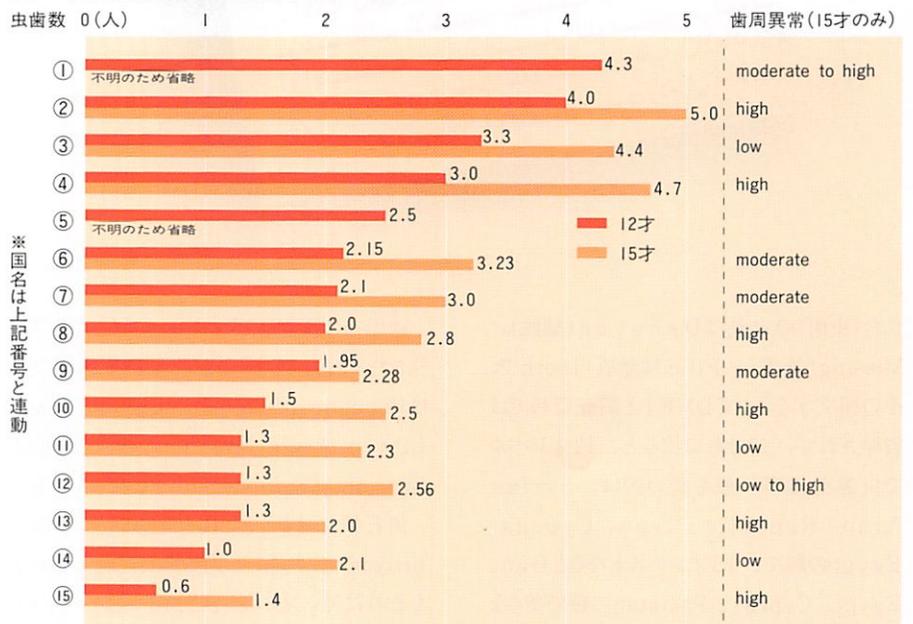
表1. 各国歯科医師1人当り人口比例



- ① 虫歯と歯周異常発生は増加傾向
- ② 基本ヘルス・ケアにオーラル・ヘルス・ケアが組み込まれていない
- ③ オーラル・ヘルス・サービスが、一般ヘルス・ケア組織から切り離されている
- ④ オーラル・ヘルス人材の不足(特にミッド・レベルの助手、衛生士、学校の先生、看護婦等のサポート・グループ)
- ⑤ オーラル・ヘルス人材の不均衡配置
- ⑥ 短期的治療アプローチ重視で、抜歯が唯一の治療である傾向
- ⑦ 必要性よりも患者の要求を満たすことを重視し、治療を受ける人口の率が低い
- ⑧ 将来のヘルス人材のニーズに関する不安
- ⑨ オーラル・ヘルスの開発、活動化、そして調査のコーディネーションの欠如
- ⑩ 基本ヘルス・ケアに基づくヘルス・ケア・システムの一環した、オーラル・ヘルスに関する統合的ナショナル・プランの欠如

以上の問題点の中でもオーラル・ケアが一般ヘルス・ケア組織から切り離されていることが、何よりの問題点という考え方が強い様だ。特に資源の乏しい経済発展途上諸国では、一般のヘルス活動の一環としてオーラル・ヘルス・ケアが認識されることが必要とされている。

表2. 各国虫歯数と歯周異常(15才のみ)



※数値と国名は調査年度が異なりますのでご了承下さい。又、統計が不明な国は省略。

### オーラル・ヘルス・プログラム

基本的考え方は、まずメンバー諸国それぞれのヘルス・ケア組織にオーラル・ヘルスを織り込みナショナル・プランを設置すること。次いで抜歯中心の治療を改めて、長期的オーラル・ヘルス改善(予防)を計ること。そして口腔衛生教育を徹底させること、となっている。

具体的に云うと、殆どのメンバー諸国はナショナル・プランを持っていないので、WHO代表がその国の当局と協議して、ナショナル・プランをたてる。たとえば、オーラル・ヘルス教育課程三年を終えた学生をヘルス・

ケア組織に組み入れる(Yemen)とか、93年度に12オグループの虫歯罹患率が93%だったのを、95年迄に80%に減らす(Lebanon)、といったことだ。

又EMR全体としての生徒向けオーラル・ヘルスの達成目標も初めて作られ、2000年迄に12オグループの虫歯1人当り1.5本、15オグループは2.5本と減らす努力をすることになっている。ちなみにWHOが1979年に全世界12オグループを対象にたてた目標では、1人当り虫歯3本となっている。

抜歯中心治療が原因で、中年以上の人口の

## 世界保健機関(WHO) 東地中海オフィスの活動状況

無歯が多く86年の調査では、45～54才のシリア・アラブ共和国の年代層の13%が無歯となっている。

予防対策では、特に幼児から青少年グループ向け口腔衛生教育、食餌コントロールに注意が向けられており、フッ化物摂取が奨励されている。フッ素添加の歯磨きを、一日一回使用するだけで、虫歯率を20～30%減らす効果があるといわれるが、国によっては庶民が貧乏で、歯磨きはおろか歯ブラシさえ買えない状況となっている。

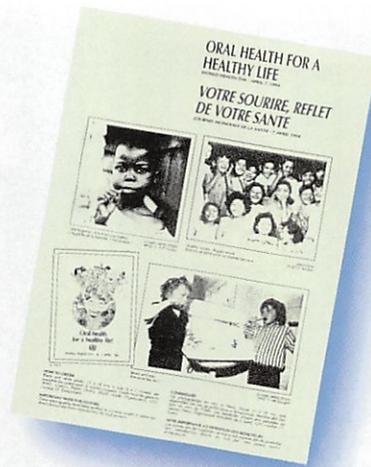
「しかしですね」とサイエド博士は言う、「『チューイング・ステック』を噛めば良いのです。Yemen地域に生えている木の幹で、その辺でも売っています。フッ素入り歯磨きと同様に、歯石を除去することに効果的です。それに一本の歯ブラシと歯磨きを買う金額で、学校中の子供たち全部にこの『チューイング・ステック』を買ってやれるのですよ。

そう云い乍ら彼は、この「噛み棒」の図を書いてくれた。巾1種、長さ6種ほどの物だ。科学的名称は「Silvadora Persica」と教えてくれた。エジプトでは「Muswak」と呼ばれているそうだ。

特定国の現状とその資源に似合ったオーラル・ヘルス・ケアのシステム開発が、プログラムの効果を左右するということだ。

それにしても、EMR諸国のオーラル・ヘルス問題は根深く、又限りなく複雑という気がする。抜歯治療を常例とする歯科医師達の再教育もさることながら、彼等の都会集中ぶりはそう簡単に修正出来る事態とは思えない。Yemenの例を挙げると、この国に在住する歯科医師の70%が首都に集中し、人口30%の歯科治療に当たっているのが現状である。他のメンバー諸国の現状も、これに似たり寄ったりとなっていて、田舎や奥地でのオーラル・ヘルス・ケア人材欠如は深刻と聞く。

EMRのWHOでは、メンバー11か国と協力して、オーラル・ヘルス人材の教育及び再教育を目的とするフェローシップ・プログラムを実施しているという。何故11か国かという、他のメンバー諸国はマラリヤその他が先決で、オーラル・ヘルスより優先権を持つ諸問題を抱えているからだそうだ。



### Oral Health for A Healthy Life

WHOは4月7日の創立記念日を、毎年「ワールド・ヘルス・デー」と指定し、各種ヘルスに関する会議や行事を開催している。今年はこの記念日に、「オーラル・ヘルス・フォー・ア・ヘルシー・ライフ」の世界キャンペーンを開始した。

サイエド博士が熱っぽく色々話してくれたが、興味を特にそそられたのは、その子供向けアプローチである。「遊び」を取り入れ、サイコロ・ゲーム式に遊んでいる中に、基本口腔衛生のことが子供達の頭の中に入ってしまう様に企画された「オーラル・ヘルス、さあ今度はあなたの番(Oral Health: Now It's your Move)」や、マンガ風で楽しいポスターやステッカー類を見せて貰った。

経済発展途上地域の国々では、貧しくてオモチャはおろか前述の如く歯ブラシも買えない子供達がザラだから、ゲームを貰って大喜びし、さぞかし熱中することだろう。「さあ今度はあなたの番」のオーラル・ヘルス・ゲームは、サイコロで出た数のところに行くと、「毎日〇〇すべき」「あなたの歯磨きは〇〇…」「あなたが避けるべき食物は〇〇…」といったクイズ式になっていて、正しく答えられたら更に先にジャンプする、間違ったら…、となっているらしい。

EMR諸国の色とりどりの子供達が、元気に笑い興ずる声がかれを書きながらも私の耳に聞こえてくるようだ。

### WHOの「ヘルシー・シティ」プロジェクト

近頃WHOが、「ヘルシー・ライフ」キャンペーンの様に、何かひっかけてはしきりに「ヘルシー」という言葉を駆使している背景には、WHOのヘルスの定義、「申し分のないヘルス状態とは、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にもヘルシーであること」、を広く伝え定着させようとの意図が感じられる。

カリフォルニア会議での講演を終えて、これ

## 世界保健機関(WHO) 東地中海オフィスの活動状況



Dr. Kew Khash-Chashm

又帰国したばかりのKew博士から、彼が担当する「ヘルシー・シティ」プロジェクトについて聞く機会に恵まれた。

紙面の都合で、このテーマについて詳しく書くことは又の機会にゆずって、概要だけとせざるを得ないが、「ヘルシー・シティ」のコンセプトはWHOの1985年のオタワ会議で誕生し、その定義は次の様になっている。

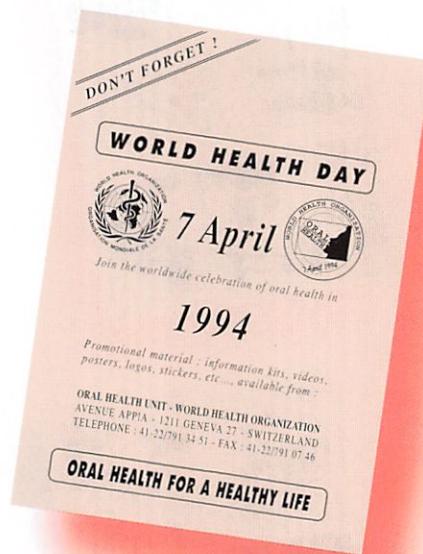
基本的概念は、「物理的な、そして社会的な環境が、ヘルスをサポートし奨励するものである時、その都市はヘルシーと見做される」。

具体的にいうと、少なくとも次の要素の幾つかはそなえているべき、となっている。

- ・住民は経済的に安定した生活を確保している
- ・まともなヘルス・ケア施設とサービスが存在する
- ・安全な水の供給と、下水設備がある
- ・汚染と極度の人口密度から開放されている
- ・安全で十分な道路と交通システムが存在し、コミュニケーション設備が整っている
- ・公園やグリーン地域、スポーツ・グラウンド、そしてレクリエーション設備が存在する

又、「ヘルシー・シティ」の要素には、次のものが含まれる。

- ・学校、大学といった教育システムが存在する
- ・図書館、住民の心を楽ませる文化や芸術の施設も存在すべきである
- ・家は良い標準に基づき、都市計画と建築物は、その住民の文化と歴史に調和し、審美



眼を刺激するべきである

- ・建物地域は、その自然地形と生態に調和良く溶けこみ、周囲の環境と一体化していること

又更に、「ヘルシー・シティ」の要素には、次のものも含まれる。

- ・人々は隣人が自分のことを懸念してくれているという気持、つまり延長線上での家族という気分があり、その気持を支える日常の社会システムが存在する。つまり、身体障害者、年長者、幼い者、貧しい者、その他の傷つきやすい人達のグループの威厳を傷つけることなく愛情をもって懸念・世話し、その人達に出来ること、持っている可能性を生かされるシステムを指す。

その様な生活環境の中で生きる住民には連帯感があり、又自分達の都市について強い誇

りがあるので、進んで都市に関する事がらに  
参加し、自分達の都市をより一層良くしよう  
との努力につながる。

最後に他の要素と同様に大切な「ヘルシー・  
シティ」の要素を挙げると、

その都市特有の性格というか品格があつてし  
かるべきである。人をして興奮を感じる雰囲気  
、活発に生きている雰囲気である

・しかも犯罪と麻薬からは開放されていて、  
肉体的、精神的安全感が備わっているべき  
である

・多種多様の共存を許し、更に社会的ハー  
モニーを促進し、その中で住民はプライバシー  
が守れ、安心して思想的にも精神的にも暮  
らせる都会である。

いささかオーラル・ヘルスには無関係と思  
われる「ヘルシー・シティ」の定義について、  
私があえて紙面をさいた理由は、WHOのビ  
ジョンを私なりに伝えたかったからである。

WHO自体が「達成することが難しい『ユー  
トピア』的思想との印象を与えるかも知れない  
が、少なくともこれらの要素のいくつかを備  
えている都市——」といている。

私は「ビジョン」とはそうしたものと思う。達  
成可能かどうかは二の次と思う。大事なこと  
は、考え抜いて、目標を建て、その目標達成  
の道を歩み出すこと、その道程で出来る限  
りの努力をすること、そして次の、更に次の  
世代にバトンタッチすること、と信じている  
からである。



筆者紹介

岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒  
ランコインターナショナル社長



## DENTAL SPACE

### 山中歯科医院

東京都杉並区下井草3-4-25

院長 山中洋子  
(旧姓・別所)

**患者さんが  
“心地良く、リラックス出来る空間”  
を提供することを  
第一に作りました。**

西武新宿線・下井草駅から徒歩で7~8分。辺りは瀟洒な店が並ぶバス通りだが、一步入ると武蔵野の面影を残す、ゆったりとした閑静な住宅街。

ご紹介の山中歯科医院は、その交差点角に建つ濃茶のテナントビルの1階。曲線を描く外壁に、医院のトレードマークであるハブラシを持ったピノキオが、手足と目玉をゆっくり動かしている。大きくはないが、町中と違って動く物が少ない住宅街にあっては、歩行者の目を引くことであろう。院長のお話によ

ると、製作が難しくSF映画を作る特殊な製作者に依頼されたと言われるが、医院としては面白い着想だ。

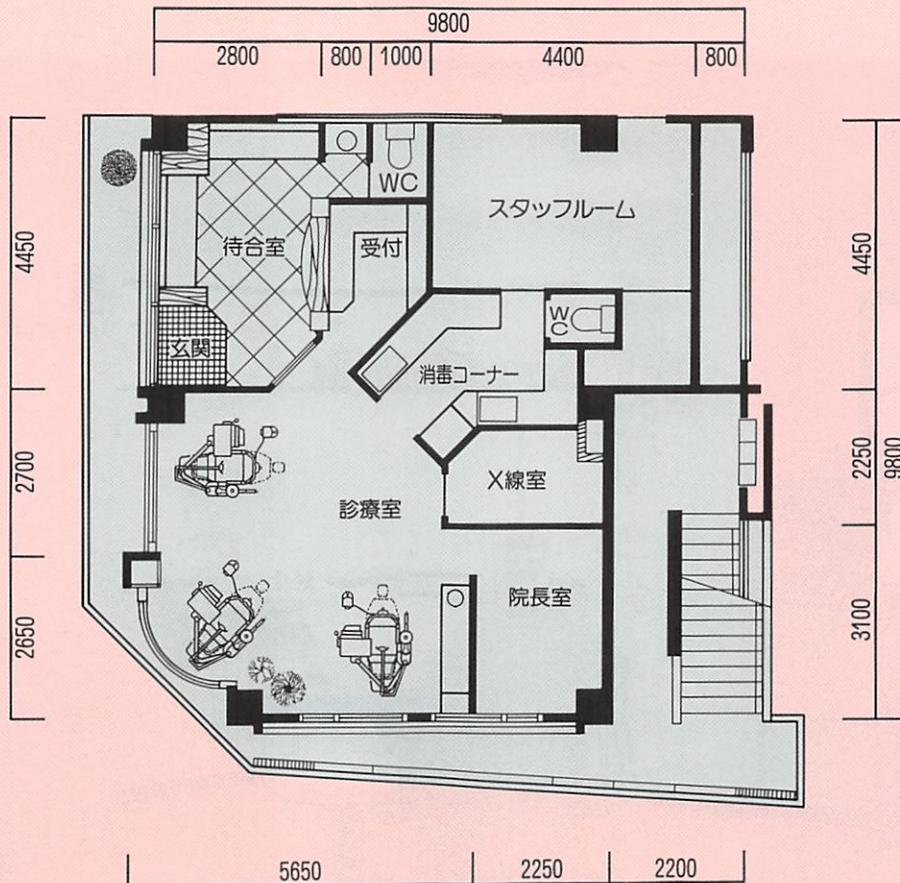
待合室は木目の床に、淡いサーモンピンクの椅子。受付は前面がゆるやかな曲線を描くオープンカウンター方式を採用。決して広くはないが、清潔で落ち着いた雰囲気の色使いである。

診療室の床は待合室と同色同材を使用。壁、天井は白。アール状の明るい窓に沿ってパステル・イエローとグレーのツートンカラ

ーのスマイリー<ノーベル>Lタイプが3台並ぶ。背面は図面でもおわかりのように放射線状に受付、消毒コーナー、X線室、院長室が設置されている。

明るい女性ばかりの診療室内で、友人感覚で話されるスタッフとの会話。患者さんにとってもホッとする落ち着いた印象を与えていることであろう。

院長は昭和58年に昭和大学歯学部をご卒業。続いて大学院では口腔衛生、特にフッ素を中心に勉強され学位を取得。その後4年間ほどは出産・育児に専念されていたが、子供から少し手が離れたことから復帰を目指し、練馬でご開業中の生田先生のもとへ。約2年余り勤務医を経験後、今年3月、実家にはほど近い当地にて開業。



院長 山中洋子先生

- 設計・施工：(株)アームス ■開業：平成6年3月
- スペース：約79㎡(約24坪) ■ユニット：スマイリー<ノーベル>3台
- 診療時間：9:30～12:30、2:30～7:00 休日：日曜、祝日、水曜日
- スタッフ構成：ドクター1名、衛生士1名、助手・技工士1名
- 患者数：1日23名前後

落ち着いてカラッとした印象の院長と笑顔が絶えない明るいスタッフ2人に囲まれた順調なスタートである。

Q：歯科医師を志された動機は？

院長：我家は両親も弟も医科関係ですが、私は一般大学の英文科に進みました。卒後は通訳等の仕事をしていたんですが、女性も何か手に職を持った方が良いと、心機一転、歯科大に入り直しました。1日4時間位の睡眠で…、生涯であんなに勉強したことはありませんでした(笑)。

Q：で、現在のご心境は？

院長：母が内科、小児科をやっておりまして、夜中の応診などを見て来ましてので、歯科ならそれもないと選びましたが、やっ

てみたら大違い(笑)。肉体労働で大変でした。でも近頃は、肉体は大変でも患者さんとのコミュニケーション、特に治療後“お陰様で良くなり有り難うございました”と言われますと、疲れも忘れて、この職業を選んで良かったと思う毎日です。

Q：専業主婦もご経験になって、苦勞はどちらが多いですか(笑)？

院長：性格にもよるのですが、専業主婦も家庭のことを総てキチッとやりますと無限だし大変な仕事なんです。その点今は患者さんのことだけを考えて治療に専念すればよいのですから、主婦より精神的には楽ですね。

Q：ご主人の協力は？

院長：すごく協力的で助かっております。も

ともと女性も将来子供の手が離れた時、生きがいとなる仕事等を持っていた方が良いという意見ですので、開業にあたっては大賛成。育児その他も協力してくれます。





Q：ご自身の勉強は？

院長：母も医科関係ですので、勉強の大切さを知っておりますから、講習会や勉強会は積極的に出るよう勧めてくれます。休みの日の子育ては主人と共に母も協力してくれて…。恵まれていると感謝しております。

Q：診療所を作られるにあたってご留意された点は？

院長：明るく落ち着いた、患者さんが“心地良く、リラックス出来る空間”を提供することを第一に。建物の外壁が2面の窓になっておりましたので、採光は充分。助かりました。主人も設計者と色々話し合ってくれて…。皆さんの協力で仕上がりましたが、働きやすいですね。



Q：今後は？

院長：開業以来気をつけていることは、まず“患者さんに親切的な歯科医院”ということですね。いつもこの患者さんが自分の身内だったらどうするか。通常の治療のもう一歩先を考えてやることを方針として日々治療しております。それと予防歯科ですね。リコールを入れて、これ以上治療した菌を悪くしないこと。メンテナンスに力を入れてやって行きたいと思っ



歯科医院の新築・  
改築・増築から  
医院経営まで、  
すべてわかる！

### 開業ガイド

- 〈主な項目〉
- 歯科医院のセクション別実例
  - 歯科医院のレイアウトチェックリストと基本事項
  - 歯科医院のレイアウト実例
  - これから開業される先生方へ  
——オサダからアドバイス他
- 〈別冊付録〉 設備機械、器具、材料リスト



定価10,300円  
(本体10,000円)

### 経営マニュアル

- 〈主な項目〉
- 開業準備の留意点
  - 開業準備計画書／開業収支・資金計画書
  - 歯科医院の節税戦略(青色申告)  
特別経費・専従者給与・損益通算・特別償却・MS法人・医療法人
  - 財テク・税テク 他



定価6,180円  
(本体6,000円)

ております。小さな時から病人に対して親切であった母の生き方を見て来ておりますから、その点は身につけているつもりですが…。

Q：オサダのスマイリー<ノーベル>。何故？  
院長：開業にあたって色々ご指導、ご相談に乗って頂きました生田先生を初め池亀先生(当誌81号にてご紹介・足立区開業)が、ノーベルを使っていらして、非常に良い機械だと言われましたし、オサダのメンテナンスの良さは知っておりましたので、開業にあたっては迷わずオサダのノーベルにしました。掃除もしやすく、ほんとに使い易い機械ですね。

<設計・施工の立場から>  
山中歯科医院を設計するにあたってのポイントは、テナントが1階でバス通りに面している為、アルミサッシは防音性の高い製品を使用しました。外からのロケーションは院長が女性ということもありまして、明るく清潔感が出るように、ホワイトとピンクのタイルでまとめてあり、待合室はオープン感覚で外からも室内が見えるよう設計し、患者の恐怖心をやわらげる照明配置を施してあります。また診療室はDr、スタッフの動線が短くなるよう消毒コーナー、X-RAYを中心にユニットの配列を考え淡い黄色の内装色で明るい雰囲気仕上げてあります。

株式会社アームス  
代表取締役 篠山 慎二

※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。  
長田電機工業(株)／お客様センター  
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5  
☎03(3492)7651(代)

# Pianist

第33回、ドクターズ・ファミリー  
コンサートで唯一人ピアノを独奏され、  
大きな拍手を浴びた女性歯科医師。

藤岡歯科医院

東京都大田区西蒲田7-62-5

藤岡久子



10月10日、我が国最大の音響機器メーカーであるヤマハが持つく銀座ヤマハホール・収容人員524名>で開催された日本医家芸術クラブ・洋楽の部で唯一ピアノを独奏された藤岡久子さん。幼少時から、ピアノ界では日本有数のお一人であり、音大教授、毎日コンクール審査員をつとめられた大堀敦子氏に師事し、本格的に勉強されたとあって、当日は他の演奏者のもとより、客席から大きな拍手を浴びた。

ちなみに、藤岡家は現在の院長である藤岡弘氏の大叔父様が明治20年本郷に開院され、ついで父上を始めとしてご兄弟や親戚まで医歯系の多い家である。ご紹介の久子先生は現在その4代目として修業中である。

ブルーのドレスに身をつつんだ久子先生。本日の曲目はショパン作曲くスケルツォ第2番変口短調作品. 31 >。出演前にお会いした印象は細くやさしそうなイメージであったが、舞台上立ち、演奏を始めると、細い指先から流れ出る音は、ある時は軽快に、ある時

は迫りに満ち、聞く人を圧倒させる。

「ピアノを始めたのは、6才位の頃だったと思います。私は姉と14才年が離れており、当時姉もピアノを習っていましたが、むろん腕の方は格段の差。私もなんとかあの様に弾けたらと、毎日夢中で練習しました。幸い姉の先生でもある大堀先生という素晴らしいピアニストにご指導を受けられる機会に恵まれましたが、3人兄弟の内、姉は国際基督教大学大学院に進み、兄は医科に進んだこともあって、私が跡継ぎとなり、ピアノの道を断念しました。ですから高校3年の後半、大学(日大歯学部・第40回卒)在校時はほとんど練習はやっておりませんし、卒後も友人の結婚式で弾くくらいで…。——それで今回は?「父の友人である古澤正己先生(大田区開業)が、出演してみたらどうか、とお誘い下さったので。再開してみました。初めは自分でも情けないぐらい指が動かなくて…。4ヶ月前から再び先生のレッスンを取ってこの会を目指し勉強しなおしました」。——現在の生活

とご心境は?「現在は父や先輩の開業医の先生のもとで一般歯科を、週一日は矯正の勉強にあてております。臨床が軌道にのり始めましたので、基礎の勉強も少しずつやり始めることになりました。その上ピアノもというのは一寸欲張りすぎなのでしょう…。でもピアノで自立することは大変難しいですし、今歯科にとっても興味が出てきたところなので、現在は歯科医師になって良かったと思っております」。——あれだけの腕を維持していくことと、歯科医師との両立。疲れませんか?「ピアノの練習はほとんど夜ですが、弾いているのが好きなので、疲れは全く感じません」。昨今、多くの家庭の子供さんが幼少時ピアノを習うという、一種のブームに近い状態であるが、さて将来は?と考えると、それを受け入れ、生活出来る場は非常に少ない。久子先生の場合、あれだけの力を持ちながら…。賢明な選択と言わざるを得ないのか?——お父様に一言感想をお聞きする。「私の祖父は明治の初期高山歯科医学院で血脇守之助先生



の先輩にあたる人で、歯科医院とすれば古い方なのです。娘はともに田園調布雙葉という恵まれた環境で、情操教育を受けましたが、その後の進路については、私はあまり干渉しませんでしたよ。本人が大堀先生に相談した結果、歯科の跡を継ぐのなら、音楽を諦めても仕方がないと言われたようで…。もちろん私も内心ホッとしましたが(笑)。今日こうした日々を持てるようになったのも、先生や多くの先輩、友人に助けられたからこそと感謝しております」。——久子先生。今後は？「久しぶりに大勢の前で弾きましたので緊張し、大変でしたが、私の本業はあくまで歯科医師。ピアノは生涯を通じての良き趣味として、これを機会に再度勉強して行こうと思っております」。

ちなみに、読者の先生方で既にご存知の方も多いことかと思いますが、「日本医家芸術クラブ」は昭和28年にオランダで開催された世界医師会議と同時に開かれた世界医家美

術展への出品を機に始まった。以来、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会などの後援を得て、医療に携わる方々の文化芸術活動として発展、今日に至る。クラブは美術、書道、邦・洋楽等々、約14あり、全国的な活動をしているご様子。時代の要求から医・歯

が一つになり、国民のニーズに応えねばならない、と言われる昨今。趣味を通して同じ医療人としての横の交流を図られたら、と思います。詳しくは東京都渋谷区桜ヶ丘14-10 渋谷コープ702号。電話03(3464)5839・(3463)9937まで。



# アシスタント紹介



## 医療法人 恵生会 まりふ歯科医院

山口県防府市新田1-8-3

院長 渡辺 徹 渡辺佐智代

重宗喜久江さん	真鍋 順子さん
石田 英子さん	下久保恵子さん
田村 清美さん	徳富 恵子さん
梶山 光枝さん	渡辺 宏美さん
小林 恵子さん	徳本紀代美さん

山陽線防府駅から車でおよそ5分。国道262号線に面し、交通の便が良いためか、1日の来院者数も120名余りと多い。院内は花と緑、空気清浄器も取り付けられ、爽やかで気持ちがいい。スタッフも若い院長を中心に総勢25名と大所帯。慰安旅行やスポーツ大会等も盛んなようで…。うらやましい様な職場環境である。

今回ご紹介のスタッフは10人と多勢。従って紙面の都合上、皆さんのお話もコメント程度に絞って頂いた。

最初にご紹介するのは当院で衛生士として5年目を迎えるチーフアシスタントの重宗さん。通常の業務の他に月2回の矯正日には、九大から来られる矯正医に付き仕事をされているという。心がけている点は？「どの患者さんにも声をかけ、笑顔で接することですね。当院はドクターもスタッフも皆若いものですから、明るく和気あいあい。

そうした雰囲気が患者さんにも伝わるのか、毎日の仕事がたのしいですね」。

真鍋さんは重宗さんの紹介で入局されたこの道12年のベテラン衛生士さん。——衛生士としての職業観は？「看護婦さんと違ってあまり知られておりませんが、夜勤や難しい介護もなく、私も子供がおりますのでパートで働いておりますが、そういった点では結婚後も医院によっては働くことが出来ますから、選んで良かったと思っております」。

石田さんは山口県 歯科衛生士専門学校を

卒業後、当院へ入って2年目の衛生士さん。——この職業に就かれて今のご感想は？「当院は患者さんのニーズに応じた診療をという院長の方針ですので、時には時間が長くなりますが、患者さんに早く歯を入れてあげることがまず第一ですから、それを最優先。技工士さんと共に頑張っております。又近頃は歯周病の患者さんが多くなって来ましたので、そうした方々への指導等、やりがいも湧いて来ました」。

下久保さんも石田さんの紹介で入局された





＜院長&奥様(薬剤師)から一言＞

当院は患者数も多く仕事もハードだと思いますが、スタッフ全員も患者さんの為に一生懸命、よくやってくれと感謝しております。常に注意していることは院内の雰囲気も含めて“患者さんの満足のいく診療を”ということですね。スタッフ数も多いので色々難しい面もありますが、定期的に勉強会を開き、共に向上して行く様にと考えています。私自身もまだこれからですが、スタッフ、両親、幼馴染をはじめ地元の方々のお陰でここまで無事こられました。感謝しております」と院長。



「院長の方針に従って、時にはスタッフ共々厳しいな、と感じることもありますが(笑)、その間に立って、何でも相談出来る雰囲気づくり。若い人達には友達感覚、家庭を持つ方達には同じ主婦としての気持、そして院長には治療一筋に専念出来る日常を。これが私の役目だと思って頑張ってきました。良いスタッフ、周囲の方達、本当に恵まれ感謝しております」と薬剤師でもある奥様が。

2年目の衛生士さん。この職業観は?「うーん。学校で思っていたよりキツイ仕事ですね(笑)。でも治療後患者さんから“ありがとう”って言われた時は疲れも吹っ飛び、なって(衛生士)良かったと思います。—— 落ち込む時は?「当り前のことですが、患者さんへの挨拶や返事等の対応の悪かった時、院長に注意され(笑)。でも結婚しても出来たら続けたいな、というのが今の心境です。」

田村さんはこの春卒業されたばかりのピチピチ衛生士さん。—— 今の感想は?「大変です(笑)。特に人と接することって難しいですね。院長先生は多少怖いけれど、でも落ち込むことはないですし、明るい性格ですから、せっかく資格を取ったのですし、この道一筋、頑張っていくしかない、と思っています」。やる気満々。頼もしい衛生士さんである。

徳富さんは今年7年目を迎えるベテランアシスタントさん。—— 長く続いた理由は?「家庭を持っておりませんが、院長と奥様の理解がありますし、仕事面でも患者さんにハガキでのリコールや電話で義歯等の調子を伺うというやりがいのある仕事を担当しておりますので、その両面から長く続けられました」と落ち着いたご返事。

榎山さんは週3回、当院に通われる衛生士さん。「午前中はこの本院、午後は分院で働いていますが、若い方々との会話、地域の

患者さんとのふれ合い。たのしいですね。当家は母も姉・妹も看護婦をしておりませんが、歯科は私一人。歯科検診時における用語の説明など、家庭内における会話にも多少役立っているようで、良い職業だと思っています。」

渡辺さんは受付担当。「やっと5ヶ月。まだまだ不慣れなんですけど、やっと近頃患者さんの顔を見てすぐ名前が浮かんで来るようになりました。痛がっている患者さんを見ると少しでも早く、と気の毒になりますが…。でもその点当院は先生が5人おりますので、他院より待ち時間が短いようで、私も気分的に助かります。やさしいご性格のようだ。」

小林さんは助手として2年の経験をもつが、当院では渡辺さんと共に受付担当。「まだ入って2ヶ月ですので、渡辺さんの重荷にならない様に、色々と学んでいる最中です。ここは同じ年令の人が多から、明るい雰囲気ですし、今はたのしい毎日です」と屈託がないご返事。

徳本さんは当院の患者さんだったことから誘われ3年前当院へ。趣味が園芸とのことで飾られている花々も総て徳本さんが担当。「仕事は分院の受付と本院の帳簿の手伝い。でも子供が3人おりますので、午前中だけの勤務です。分院はお年寄りの方がわりと多いので、暖かく、アットホーム的な雰囲気づくり。それを心掛けています。」

# アシスタントのための診療室の手引き



定価6,180円  
(本体6,000円)

アシスタントとしての心構えから話し方、患者さんへの対応の仕方、会計、消毒、手渡し技術等々をわかりやすく解説。また、簡単な機器・機械のメンテナンスも図付で説明。アシスタントのノウハウを詰め込んだ一冊です。



※ご希望の方は下記迄、御連絡下さい。  
長田電機工業(株)／お客様センター  
〒141東京都品川区西五反田5-17-5  
☎03(3492)7651(代)

**早くて簡単。  
しかも持ち運び自由な  
オサダ<プチクレーブ>。  
緊急時の滅菌には助かりますね。**

## マキオ歯科医院

栃木県足利市堀込町2848

院長 牧尾隆司  
(昭和大学歯学部卒・32才)



### 東

武線・足利駅より車で3〜4分。近くに大病院が建つ静かな住宅街の中に淡いピンクのタイル貼りの外壁に、広くゆったりとした駐車場の。一際目立つどっしりとした構えを見せている。建物内部も、待合室・診療室、ともに曲線を多く採り入れた和らかな雰囲気。設計図をお見せ出来ないのが残念なくらいな素晴らしい間取りとインテリアである。

院長は卒業後、補綴学教室に残る予定が、お父様が亡くなったことから急遽帰郷、地元に近い小山市で勤務医に。4年前に実家のある当地でご開業。——現在の「心境を」会社を経営する父の長男でしたが、母の勧めで歯科大に進みました。今は天職だと思っております」とキツパリ。堂々とした体格であるがやさ

しいご性格のようだ。その性格に熱心な勉強が加わり、患者さんにも大好評。経営も順調な様子である。——将来は「以前、週一日、大病院へ行きフルデンチャーを勉強していました。来年から又、月2回くらい行って勉強させて頂きたいと思っています。やはり今は医科のように、自分の専門をキチンと持つことが必要だと思っています。幸い私に向いている職業ですし、高齢化社会に向って、地域の方々と共に歩む歯科医でありたいと願っています」と明るく爽やかなご返事。

◇ ◇

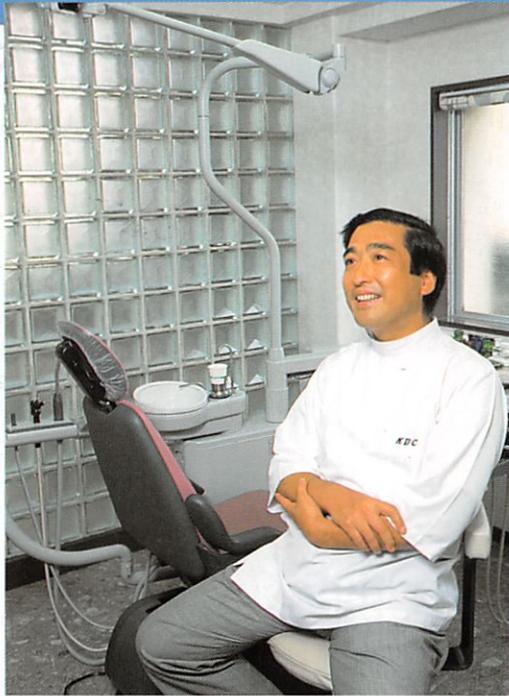
院内感染防止が大切なことから、早くて簡単、しかも持ち運びが自由なことからこのオサダハプチクレーブを購入しました。特に緊急時の滅菌には助かりますね。



インストゥルメント専用オートクレーブ

**オサダ  
プチクレーブ**

製造承認番号 06B第0267号 ￥198,600 ※消費税別途



**使えば使うほど、便利さを  
引き出せる<ファインGMD>。  
よく考えられたシステムには  
感心しております。**

**医療法人社団 聖母会  
聖母歯科医院**

東京都板橋区徳丸4-6-12

理事長 河野知弘

(神奈川歯科大学卒・46才)

専務理事 河野美穂

(旧姓・斉藤、鶴見大学歯学部卒)



MDはコンピューター制御で、最初から総てを使いこなすのはちょっと大変かと思いますが、使えば使うほど便利さを引き出せます。歯科医の要求を満たす、よく考えられたシステムには感心しております。

◇ 窓側に沿って並んだユニットの真ん中には、20年前お母様が購入された特注品である小児専門のユニットが。オーバーホールをされたと言われるが、新品同様、カラフルで可愛い一面を形づくっている。その隣りが△ファインGMDV。傍らには外科用に使われる機器が一式。手術を要する、消毒面にも万全を期したファインGMDユニットをご使用される先生の実力を象徴されているようだ。「母の代からずっとオサダのユニットを使用しております。ファインG

**東** 武東上線・東武練馬駅より商店街を徒歩で7〜8分。(医)聖母会はこの本院の他、同じ東上線沿いの大山駅と地下鉄・有楽町線永川台駅に分院を持つ、開業歴50年近い歯科医院である。「戦後すぐ母(日本女子歯科医専卒)が開業しました頃は、この辺りは焼け野原だったんですが、日本の経済復興に伴ってこの様に姿を変えてしまいました。往時は患者さんがあふれ、そんな影響かな、歯の治療は幼少時より治さなければと、大学では小児歯科を専攻。大学院では口腔衛生、その後は予防歯科を勉強しました。現在も母校で予防歯科の講師をされておられるという実力派。女医である奥様と共に歯科医師として脂に乗り切った40代。患者さんにもさぞ評判の良い医院であらう。



OSADA  
**Fine GMD L233LL**

製造承認番号 03B第0326号



※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。